

農学部は陸、海、空が学びの場

農学部って農業の研究をしているって、思っている人が多いと思います。もちろん、お米や野菜やお花や果物や家畜の育て方の研究もしています。それだけじゃないんです！野生動物、昆虫、微生物、食品、病気、健康、地球、景観、自然環境、遺伝子、経営など何でもありです。

今回は農学研究の中の、植物と野生動物と昆虫の研究を中高生向けに、わかりやすく紹介します。

講演1

ひみつのサボテン
一細胞の中の環境応答—
近藤歩先生
植物機能科学研究室



サボテンやカランコエなど乾燥地で生育する多肉植物の環境適応機構について、電子顕微鏡などで、細胞内の「不思議な現象」を解析し、植物のダイナミックで巧妙な変化を探究しています。細胞や組織の構造を詳細に調べることは、植物の持つ機能を理解するために重要です。本講では、ウチワサボテンの莖節組織で、葉緑体が定説以上に細胞内で動的な反応を示すことを紹介します。外観の形だけではわからない、ここだけの細胞のひみつ。わくわく、サボサボ、ばけばけ。

講演2

ウミガメ目線の環境学
檜崎友子先生
環境動物学研究室



一生をかけて大海原を回遊するウミガメ。どうやって行き先を見つけ、何を食べ、本当に海洋ゴミを食べて命を落としているのか？その生態は今も多くの謎に包まれています。私たちは、動物装着型記録計を用いるバイオリギングで、ウミガメの行動・生理・生態の解明に挑んでいます。さらに、気候変動や海洋ゴミ問題などの地球規模の課題に対し、動物目線を取り入れた多角的な視点から、人と自然が共生できる社会の実現を目指しています。

講演3

ハチってスゴイ！
辻本翔平先生
植物保全学研究室



ヒトに嫌われがちハチ。実は私たちの暮らしに欠かせない大事な生き物なのです。私自身はハナバチを含む花に集まる花粉を運ぶ昆虫（送粉昆虫）と花との関係性を明らかにする研究を行っています。送粉昆虫は現在の生物多様性を下支えにする植物の繁殖を一身に担っています。中でもハナバチはとても重要でスゴイ能力を持っています。本公演では特にハナバチという分類群に焦点を当てて、実はすごい彼らの生態と、その重要性、現在直面している課題について解説します。

日時 2025年11月15日(土)13:30～15:30

会場 名城大学春日井キャンパス
農学部附属農場 本館2階講義室1

定員 90人（右記QRコードGoogle Formより先着受付）

対象 一般市民、高校生、中学生

春日井キャンパスへのアクセスは[こちら](#)

当日10:00より[農場体験イベント](#)を実施します

また、講演会の前に中高生のみ対象の[研究室見学会](#)を予定しています

MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

